

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

新年初登り

年が明けた1月3日、このところ毎年恒例で行っているアイスクライミングを行った。場所は乗鞍高原、善五郎の滝。参加したのは2年生が3人、1年生が5人(内女子2人)。サポートとして、大町山の会のY、Oの2氏、小生の前任校の山岳部の生徒で妙高の国際アウトドア専門学校生のS君。顧問ではないが、やってみたいという体育科のK氏も同行した。Y氏は大町北高、O氏は大町高のOBでもある。こういったサポートを頼めるのは、きわめて心強い。

この冬は寒気の入り込みが長続きせず、ここまでは暖冬傾向。果たして氷は張っているか、心配だった。9:00に滝の前に立って、案の定、あまりの氷の発達が悪さに驚く。昨年の氷も悪かったが、



今年はそれ以上である。しかし、人数も多いし、右の小滝を中心にやれば生徒たちはそれなりに満足するだろう。早速トップロープを張るために、滝の右側から登る。成長著しいS君にトップを任せ、小生がセカンドで登った。その間、滝の下部ではY、O両氏がアイスクライミングの基本を指導。

滝の上に登り立ち、下をのぞき込むと、やはり本流の滝は薄く、場所によってはやばそうだ。未発達の水柱をたたき落しながら、懸垂下降で下りると流れ落ちる水でアウターはびしょり。それでも何とか、2本のルートはできあがった。

正面滝は生徒を登らせるにはややリスクがあったので、中間下部までとし、小滝を中心に登らせることにした。順次、確保と登攀をさせる。2年生は昨年のことを覚えているので、身体の動きがスムーズだ。初体験の1年生は身体がアイゼンと、アックスを完全に信用しきれないので、なかなか一歩が出ない。それでも、今回小滝のほうは、ポケットや段差が多いので、全員が一度で上まで登れた。



大人は自己責任だからと勝手に理屈をつけて、一本本流を登ってみた。堅そうなところを選びながら、何とか上まで抜けたが、時ならぬ真冬のシャワークライミングになってしまった。一本登って少し要領をつかんだ生徒たちもかわるがわる登っては楽しみ始めた。どの生徒も満足げである。およそ3時間、時折小雪の舞う中、氷も今一だったが、生徒たちには刺激的な時間になった。

こうして、新年初登りは好評のうちに終わった。こう

いったことが実際にできるのも、サポートしてくれる仲間あつてのことである。ありがたいことだなあと思いながら、乗鞍温泉に浸かりながら、冷えた身体を温めた。

中信安全登山研究会研修交流会のお知らせ

例年秋口に行っている中信地区の研修会を今年は冬に行おうということで、下記のように計画している。中信以外の高校も参加は歓迎いたしますので、もしご都合のつく学校がありましたら、ぜひご参加ください。詳細は小生までお問い合わせください。講演会は去年に引き続き服部徹さんをお願いし、翌日の実技は鷹狩山で行います。

実施要項 (抜粋)

ねらい 学校登山指導者および高校山岳部指導者の技術向上ならびに交流

山岳部生徒の技術向上ならびに交流

主催 中信地区安全登山研究会・中信高等学校体育連盟登山専門部

期日 2017年1月21日(土)～22日(日)

場所 長野県山岳総合センター(大町市) 鷹狩山

対象 中信地区学校登山指導者・中信地区高校山岳部顧問・中信地区高校教員で山岳活動に興味をお持ちの方・中信地区山岳部生徒・その他

講師 服部徹氏【ブロードピーク(8047m)登頂者/理学療法士】

日程および内容

日時	場所	内容	備考
1月21日(土)	15:00	長野県山岳総合センター 講習1 ・ 役立つロープワーク ・ ビバークの仕方 講師:事務局 大西浩ほか	高校山岳部生徒、顧問として知っておきたいロープワーク、いざというとき役立つビバーク技術などを研修します。
	17:00	同上 講習2 ・ 登山のための歩きの科学 講師:服部徹氏	疲れにくく膝や腰に負担の少ない効率的な歩き方や身体の使い方を、実践的に学ぶとともに、日常でのトレーニング方法や身体のケアの仕方を学びます。
	19:00	同上 活動交流・懇親・夕食 山岳部の活動交流	山岳部の活動についての意見交換と顧問間の交流 生徒同士の交流
	22:00	同上 ビバーク体験 就寝	センターでの宿泊ですが、希望者はビバーク体験も可能です。
1月22日(日)	6:30	同上 起床 ・ 朝食 清掃	
	7:30	鷹狩山 登山 講習3 7:30 山岳総合センター出発 ・ 鷹狩山登山 ・ 読図 ・ 途中でロープワーク実習 ・ イグルーづくり	前日の講習の実践 読図技術の習得
	14:00		終了・解散

- ・ 全日程を通じて、登山やクライミングの経験の有無に関わらず、参加いただける内容になっています。
- ・ 顧問の間の交流も主眼の一つです。

